

3月定例活動「第5回萌木まつり」

眞弓 浩二

森くらぶが主催する「萌木まつり」も回を重ね早5回目となった。発足当初を回想すればオアシスの森を取り巻く状況や各地で展開される里山保全活動も大きな変化を見せている。今回はそんな中、森づくりの仲間の交流を深めるという「萌木まつり」の趣旨に添って、周辺各地で同じような森づくり活動をされている団体に広く呼び掛け、一堂に会する催しを試みた。参加していただいた方々は、計24団体にわたる75名のみなさんであった。図は現在確認できる活動団体の一覧であるが、各団体はまたそれぞれのネットワーク団体を構成しており、ここからも名古屋市内を中心に森づくり活動の充実ぶりがみとれる。

午前10時に「集いの広場」に集まった参加者は、まず「オアシスの森」の生みの親の一人である林進教授のお話を伺い、パートナーシップ型森づくりの意義、集団で自己学習するしくみの重要性等、森づくり活動の一つの出発点といえる「オアシスの森」で感慨

深いミニ講演を聞くことができた。



その後午前中は、いくつかのグループに分かれ「森くらぶ」メンバーの案内で森の中を散策した。散策途中では昨日の早朝より「竹炭焼き」を担当してくれた村田さんによる解説や竹炭のお裾分けなどもあった。



お昼には平尾さん、奥村さん、小島さん達が腕によりをかけてくれた暖かい「豚汁」がふるまわれ参加者の好評を得た。

午後は、相生口の竹林で管理活動をおこなったが、初めての方も熟練の方も、みんな一緒に気持ちのいい汗をかくことができ、竹林もまた明るく清々しくなった。

